平成二十六年度　修了児保護者

附属幼稚園は、我が子にとってまさに「夢中になって遊べる環境」でした。好きな素材を自分で選び、自作の遊びをダイナミックに展開！クラスのみんなで作ったという段ボール迷路が教室中を埋め尽くしたことも…。晴れた日には急ぎ足で園庭へ。砂や水、花や木の実を使った遊びも季節によって変化が見られ、新しい発見が…。

先生方は、こうした子供たちの姿に優しく寄り添い、新たな気付きを促す素敵な魔法をかけてくださいました。また、附属幼稚園ならではの大学と連携した取組や、学園内での様々な交流活動を通して、親子共に多くのことを学ばせていただき、感謝しております。

先日、附属幼稚園の近くを通りかかった際、懐かしい光景を見かけました。「親子で手をつないでの登降園」です。降園時には、担任の先生がその日の様子を伝えてくださり、三人で手をつないで「さようなら」。幼稚園全体

がまるで一つの家族のように、我が子もお友達もみんなで育てていこうという温かい雰囲気で包まれていました。

今では親子で手をつないで歩くことはなくなりましたが、あの頃の手の温もりは、我が子の記憶の底にいつまでも残り、この先を生きる力へと繋がるのではないかと思います。